

Bコース プレ巡検 和歌山平野の海岸砂丘を巡る、眺める

- ・日程：8月21日（金）午後
- ・定員（最小催行人数）：22人（5人）
- ・参加費：4,700円（以下*），鉄道・タクシー利用
（※ 参加者が多くなれば全コース通してマイクロバスが利用でき，参加費も安くなります。）
- ・地形図*（必要な方）：1/2.5万「和歌山」「加太」（※ 当日資料にも地形図を掲載予定）
- ・案内者：趙哲済（大阪支部），藤藪勝則・菊井佳弥（和歌山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター）
- ・集合／解散：12:00 南海本線「和歌山市駅」改札口／17:00 和歌山大学
- ・コースとおもな見学内容

都会の近くに砂丘や浜堤がある和歌山平野の地形・地理を体感します。

- ① 市街地から紀の川河口を挟んで北西にある古屋（こや）付近で，砂丘・浜堤と堤間低地を散策
- ② 市街地の西にある最前列の浜堤を利用してつくられた水軒（すいけん）堤防を，移築地の西浜で見学
- ③ 市街地の南，章魚頭姿山（たこずしやま）頂上から，和歌山平野を眺望

【魅力と見どころ】

- ① 浜堤平野がもっともよく残る古屋付近には，幅700m余りの中に砂丘・浜堤が横列に4列並ぶ。堤間低地の標高が5～6mであるのに対して，砂丘・浜堤はいずれも8m以上あり，ことに陸側から2列目の砂丘は標高20m前後あって際立って高い。砂丘・浜堤や堤間低地を散策し，地形と土地利用，海側から陸側への砂の粒度変化などを観察する（写真1）。
- ② 紀の川河口の南に延びる最前列の浜堤は，18世紀後半から19世紀初頭までの間に南北約1kmが石堤や土堤に造り変えられた。発掘後に移築された水軒堤防は，緑泥片岩と和泉砂岩が巧みに使い分けられている。
- ③ 平野の南端にある海拔137mの章魚頭姿山の頂上へは，緩やかな山道を約20分歩く。頂上近くの道沿いにはこの低山をつくる緑泥片岩が露出する。展望台からは縄文時代前期以降に形成された和歌山平野が見晴らせる。北には遠方に古屋の砂丘・浜堤，眼下に水軒堤防，東には和歌浦の干潟や片男波の砂嘴が手にとるように楽しめる（写真2）。



写真1 古屋2列目の砂丘



写真2 章魚頭姿山からの和歌山平野の眺望

- ※ 散策で約2km，眺望で往復1.8kmを歩く，野尻湖友の会の観察会なみの入門編巡検です。
- ※ 当日荒天で章魚頭姿山からの展望が効かない場合は，和歌山城の石垣見学に変更します。石垣の石材は和泉砂岩と結晶片岩が用いられていますが，石垣の構築時期によって用いられた石種が変わります。
- ※ 和歌山大学で解散後，受付を済ませて，アイスブレイクパーティーに合流できます。